

## 善行顕彰



6月12日、1輸空隊朝礼時に善行顕彰を行いました。

善行顕彰とは、公的な枠組みでは表彰できないが、隊務に貢献する行いをした隊員を顕彰するもので、多数の隊員の前で各種の善行を紹介・顕彰することで、隊員が感化され次の活動に繋がることを目的として始められました。

令和2年10月から開始され、これまで延べ93名が顕彰されました。

善行顕彰を行うにあたり現在では推薦から顕彰の準備までを准曹士先任が担当して行っております。善行顕彰の考えに則った行いを行っている隊員を編制単位部隊の准曹士先任から推薦してもらい、副司令、隊司令へ報告し選考します。顕彰者決定後に表彰状の案文作成と同時に、記念品のマグカップを制作します。マグカップにはサンドブラスト（砂を吹き付け表面に傷をつけて図柄を描く技法）にてK/C-130HとKC-767のシルエットや善行顕彰の「善」の文字を描いており、受け取った隊員が善行顕彰を受けたことを思い起こして欲しいという願いを込めて渡しております。

さて、今回顕彰を受けた4名の善行について紹介します。

1人目：ある航空祭での出来事です。一般来場者の男性が血を流して倒れているところを隊員が発見し止血処置を行うと同時に、周りの来場者へ医療従事者の協力依頼、AEDの確保、救急車の手配などの声かけを行い迅速な対応を行いました（その後、来場者の方は大事な事が確認されました）。

2人目：趣味でフライングディスク（フリスビー）をするなかで後輩隊員のみならず一般の方へも声掛けを行い、即席のフライングディスク教室を開催して一般の方へ自衛官の魅力についても広め、自衛隊への理解促進やイメージアップを行った。

3人目：自身の子供の学校において、PTAの会長を務め終えた後も運営協議会役員や小牧市防犯パトロール指導員として活動し、近隣住民との交流や青少年育成に尽力する中で自衛官や小牧基地に対する理解促進に貢献した。

4人目：警備職域として行事等において毎にらっば吹奏をしている中、小牧基地や1輸空隊の代表となる楽曲を作れないかとの上司からの相談を受け、見事らっば吹奏曲を作曲した。現在、同曲は国外任務時や定年退官行事において花を添えるために欠かせないらっば吹奏曲となった。

どの隊員の善行も同じ自衛官として誇らしく思うのと同時に、同様の善行を行っているが表彰できていない隊員もたくさんいると思いますので、各准曹士先任方は隊員の心情（身上）把握を行う中で次の善行顕彰隊員の発掘をお願いします。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

1輸空隊准曹士先任

## 防衛・基地モニター第1輸送航空隊研修



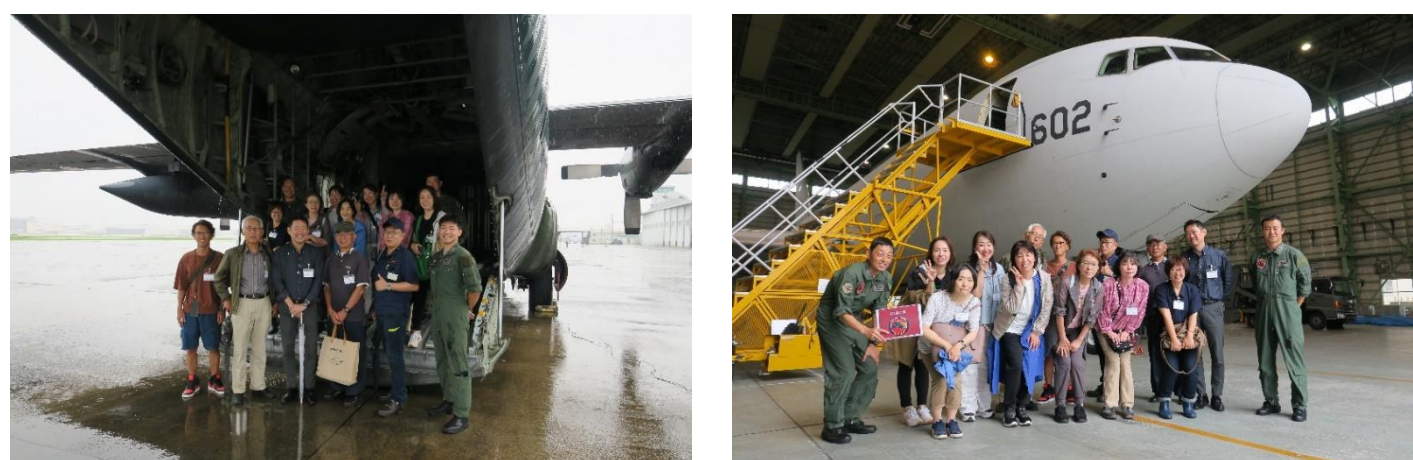
6月28日に参加した第1輸送航空隊の研修は、普段は見られない特別な内容でありとても充実した体験となりました。

輸送機2機種、K/C-130HとKC-767の性能に驚かされ、隊員さんの技術の高さと訓練の重要性を実感しました。

整備補給群見学では、整備隊・装備隊・修理隊・補給隊の大切さを痛感。細部にわたる注意と地道な作業を目の当たりにし、まさに職人技！と感心しっぱなしでした。航空機整備に必要なスキルを身につけるため、日々の努力や訓練、現場での指導が欠かせないことを理解しました。各見学場所ではそれぞれの隊員が質問に快く答えてくれて、笑顔で司会進行する姿も親しみやすくとても好感が持てました。

この見学を通じて、第1輸送航空隊の任務の重要性とその裏側には多くの支えがあることを理解する良い機会となりました。今後も研修に積極的に参加し、理解を深めていきたいと思ひます。このような機会を準備して下さった関係者の皆さんに感謝いたします。

基地モニター



## 菅島野外行動訓練



6月29日、第1輸送航空隊は、三重県鳥羽市の菅島にて野外行動訓練を実施しました。

ここ菅島は昭和58年にC-1輸送機が墜落した場所であり、本訓練は野外行動に必要な気力、体力を会得すること、また菅島航空事故の教訓等についての認識を深め、安全意識の高揚を図るとともに、自衛官としての徳操を養うことを目的として行われました。

参加者は前日から現地である山頂を目指した副司令以下49名で、梅雨の蒸し暑い気候の中、道中の清掃をしつつ、慰霊碑がある山頂を目指しました。途中、前日までの大雨による湧き水や水溜まりに道を遮られながらも無事に目的地まで到着しました。

日頃から島民の皆様のご厚意により、慰霊碑及びその周辺は綺麗な状態に整備をしていますが、到着後は訓練隊全員で殉職者に思いをはせながら慰霊碑周辺の清掃を行ったのち、黙とうを捧げ各隊員が安全について認識を新たにしました。

菅島の方は「俺たち漁師も一度漁に出たら帰って来られる保証はない。だから菅島で起きた航空事故も他人事とは思えないんだよ。」と言って、慰霊碑周辺の整備を続けてくださっています。そんな島民の方の気持ちに触れた参加者は「事故当時は多大なご迷惑をおかけしたにも関わらず、こんなにも協力してくれてることを初めて知った。とても有難いし、二度と事故を起こしてはいけないと思った。」と感想を述べていました。

